

那須温泉 山楽

大正十二年創業 源泉掛け流しの日本旅館

ご予約・お問い合わせ:

TEL [0287-76-3010](tel:0287-76-3010)

那須温泉山楽 (担当: 印南)



飛鳥時代開湯の歴史を持つ温泉郷と豊かな自然溢れるロイヤルリゾート



東京と仙台のほぼ中間に位置し、関東と東北を隔てるように横たわる雄大な那須連山。その南麓に広がる那須高原は古くから湯の里として知られ、皇室ともゆかり深く、皇室の別荘である御用邸があることからロイヤルリゾートとしても人気の立地。

殺生石や松尾芭蕉や義経伝説に代表される様々な史跡が残るほか、山並みに抱かれた里山の農村や広大な酪農地帯が広がる自然豊かな那須。

連山の主峰、茶臼岳の山麓地帯には、飛鳥時代に開湯したとの記録が残る、1390年もの間、多くの人々を湯治静養してきた歴史をもつ那須温泉郷が広がっています。

現在も効能高い温泉と四季折々の豊かな自然で人々を癒し、学びを与えてくれる環境です。



日光国立公園
「那須平成の森」に遊ぶ
大人の自然学校

ロイヤルリゾート・
那須御用邸で
自然観察トレッキング
かつて人は森に憩い、
森の恵みを受けてきた。
関東の北に広がる
高原の春を行けば、
そんなはるかな記憶が
よみがえってきそうだ。
薫風に誘われて、
血室にゆかり深い
花盛りの森を歩く。

松本正史 著 | X text by Masataka Yamamoto
上野原 撮影 | photographs by Akira Hanada
那須町



那須を愛し、
自然を慈しまれた
昭和天皇





那須は、「温泉神社」など温泉を祀る社が80社ほどある温泉信仰の極めて篤い地域。

那須温泉が初めて文献に現れるのは、飛鳥時代630年の温泉発見から約100年後、奈良時代738年に著された正倉院文書『駿河国正税帳』。湯治のため那須温泉に向かうという記述があり、すでに奈良の都にまで知られたことがうかがい知れます。

<歴史上の著名人が那須温泉を訪ねた記録を挙げた例>

- 鎌倉時代1193年 源頼朝が那須野の狩りの際に入湯
- 文永2年 1265年 日蓮上人が病氣療養のため湯治に訪問
- 江戸時代1689年 松尾芭蕉が、おくのほそ道の行脚の道中で当地を訪れ入湯

鎌倉時代に成立の『平家物語』でも、屋島の戦いで那須与一が敵船上に揺れる扇の的を射当てる際に「～、那須の温泉大明神、願わくばあの扇の真ん中射させてたばせ給え」との記述あり。

温泉湯治はもともと、将軍や大名だけが行っていたが、江戸時代に五街道が整備されると大名行列が盛んになり、江戸中期には庶民に温泉湯治が全国でも盛んになっていきました。

温泉番付

那須温泉は東方の関隘

温泉番付とは、温泉地を大相撲の番付に見立ててランキングしたものです。初めて作られたのは、江戸時代の安永年間(1772～1781)ごろといわれ、東日本の温泉地を東方、西日本の温泉地を西方に分け、人気ではなく温泉の効能の高さを元で、全国100か所近くの温泉が番付されていました。温泉の番付は、作成された地域や年代により多少の違いがありますが、最高位(大関)は常に共通で、東は草津、西は有馬となっていました。文化14年(1817)に発行された「諸国温泉効能鑑」によると、東方の関隘が那須、西方では城崎で、那須温泉が東日本で草津に次ぐ二番手に格付けされています。那須温泉の番付ほどの番付表においても総じて上位にランクされていて、江戸時代から那須温泉が湯治場として高く評価されていたことを窺い、知ることができます。



大正12年創業。百年の歴史を持つ昭和天皇もご来館された伝統ある日本旅館

避暑地として名高い那須高原にひっそりと佇む、創業百年の歴史を持つ「那須温泉山楽」。
国内・海外の要人の迎賓宿として創業し、開業後まもなく昭和天皇がお越しになられた際、当館二階からの雄大な那須野が原の景観を大変お気に召され那須御用邸建設を計画されました。当時から変わらぬ雄大な景色と、御用邸と同じ泉質のかけ流し温泉をお楽しみください。



著名人・作家・画家にもご愛好いただきました。

山楽を訪れた主な人々

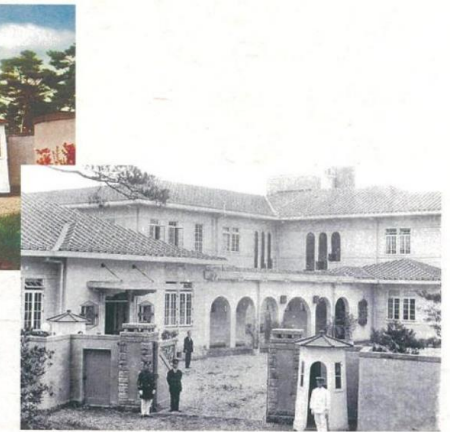
■昭和天皇（皇太子時代）

- ・大正12年（1923年）8月7日（火）
 - ・11時頃山楽にご到着し、昼食を召し上がった。
- 当館二階からの雄大な那須野が原の景観を大変お気に召され那須御用邸建設を計画されました。



那須御用邸正門（戦前）

令和の現在もこの建物のままの御用邸です



那須御用邸通用門（戦前）

■与謝野晶子夫妻

- ・昭和8年（1933年）12月31日
 - ・山楽で詠んだ句
- 「いと寒し崑崙山に降る如し病めば我がある那須野の雪も」
「むらさきに 春の風吹く 歌舞伎 幕うしと思ひぬ 君が名の皷」
- 冬を思う詩と春の藤を予感する二首を詠んでいます。
今も山楽の1階ラウンジには藤が綺麗に咲き、風に揺れる様子をご覧ください。

現在のラウンジからの藤 ▶



■入江侍従長

- ・昭和57年（1982年）8月7日
 - ・山楽「雅の間」で夕食
 - ・入江侍従長が山楽で詠まれた句
- 「白河の関山あたり 雲かきその雲の上朝日はのぼる」



■第81代内閣総理大臣・村山富市

- ・平成6年（1994年）8月2泊
- ・総理大臣就任後、初めての夏休みで山楽にご宿泊

与謝野晶子・鉄幹夫妻と那須温泉山楽



与謝野晶子・鉄幹夫妻

昭和9年（1934年）1月1日、与謝野晶子（55才）・鉄幹（60才）夫妻は、那須温泉山楽で新年を迎え、新年の歌を詠んでいます。

「いと寒し 崑崙山に 降る如し

病めば我がある 那須野の雪も」

※崑崙（こんろん、クワンロン）とは、中国古代の伝説上の山岳。
中国の西方にあり、黄河の源で玉を産出し、仙女の西王母がいるとされた。
仙界とも呼ばれ、八仙がいるとされる。
『定本与謝野晶子全集 第7巻』歌集7「いぬあぢさい」所収

「むらさきに 春の風吹く 歌舞伎幕

しと思ひぬ 君が名の皷」

『定本与謝野晶子全集 第2巻』歌集2「在保姫」所収

与謝野晶子（明治11年12月7日生～昭和17年5月29日没）（64歳）

与謝野鉄幹（明治6年2月26日生～昭和10年3月26日没）（62歳）

【那須温泉山楽の所在地】

那須御用邸の敷地に隣接した、高原の豊かな緑に囲まれた静寂の立地
那須塩原駅から送迎バスで約35分、東京駅から電車で計1時間45分。

